

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3470204185		
法人名	株式会社 アイリーフ		
事業所名	グループホーム アイリーフ五日市		
所在地 (電話番号)	広島県広島市佐伯区八幡二丁目23-15 (電話) 082-926-2736		
評価機関名	(社福)広島県社会福祉協議会		
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2		
訪問調査日	平成21年10月13日	評価確定日	平成21年12月18日

【情報提供票より】(H21年8月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 12 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	8.8 人

(2) 建物概要

建物形態	<input type="radio"/> 併設/単独	<input type="radio"/> 新築/改築
建物構造	重量鉄骨 造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	<input type="radio"/> 有(180,000円)	<input type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="radio"/> 有()円	<input type="radio"/> 有りの場合 償却の有無	<input type="radio"/> 有/無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8月28日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	5 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.3 歳	最低	78 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	はやしクリニック 甲野歯科 生協さえき病院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームアイリーフ五日市(以下「ホーム」)は、広島市郊外の住宅地の中にあり、近くに大型スーパーや病院、学校、植物公園等、生活に便利な環境にあります。庭には梅やかりんの木があり、季節の花々も咲き、野菜畑もあって利用者は身近に季節感を味わうことができます。地域の町内会に加入し、四季折々の行事に参加するとともに、住民も気軽にホームに立ち寄れる環境をつくられています。「あたたかい家庭の雰囲気そのままに」という理念のもと、その人らしく暮らせるよう、地域の老人会や小学校、幼稚園との交流の機会を持たれ、災害時にはホームを一時避難場所とするなど、自然体で地域に受け込んだホームとなっています。職員は積極的に研修に参加しながら技術の向上をめざし、連携体制のケアで利用者の支援をされています。管理者は地域の中で介護保険や認知症に関する講座等をして住民の相談にのるなど、親しみのあるホームをめざされています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では特に改善課題はありませんでしたが、これまでに築かれた地域とのつながりをより深め、庭の花作りや行事への参加で、地域の人が立ち寄りやすい環境づくりが期待されます。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員会議で情報交換し、意見交換をしながら自己評価に取り組まれています。評価結果は具体的なサービスの改善に活かされています。新採の職員には「自己評価」及び「外部評価」の意義について説明し、全員での理解に努められています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、町内会長、民生委員、家族代表、地域包括支援センター職員など多数の参加で2か月に1回開かれています。会議では利用者の日々の活動の様子やホームの取り組みなどがプロジェクトでわかりやすく報告され、意見の交換が行われています。話しやすい雰囲気作りにも配慮されており、テーマも「評価の活かし方」や「地域防災」について検討されています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時には利用者の様子が丁寧に伝えられ、何でも言える信頼関係ができています。毎月の家族へのお知らせの中にアンケート用紙を同封し、家族の意見を聞いたり、苦情箱を設けるなど、家族の要望に迅速に応える取り組みをされています。家族会も年2回開かれており、運営推進会議にも家族代表の参加があるなど、家族の思いが運営に反映されています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームは町内会に加入し、老人クラブの集いや納涼祭、秋祭りなどの行事に参加されています。地域の住民も庭の花摘みなどでホームに気軽に立ち寄るなど、よい関係をつくられています。地区のサロンでホーム管理者による介護保険や認知症の相談もされ、相互により関わりをもちながらオープンな交流をされています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「あたたかい家庭環境そのままに」という独自の理念を掲げ、ゆったりとした自分の時間がもてるよう配慮されています。地域の人が訪問しやすい環境づくりに取り組み、交流していくことでその人らしく過ごせるよう支援されています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、各ユニットごとに毎月3回ミーティングの場を持って、利用者が自由にのんびり過ごせるように理念の共有を図りながら、日々の実践に取り組まれています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームとして町内会に加入されており、地域の納涼祭や秋祭りなどに参加されています。地域の人も、ホーム庭の草花観賞や摘み取りに立ち寄るなど、よい関係を持たれています。また、管理者は地域で介護保険や認知症の講座を開き、地域の人の相談に乗るなど、交流の機会をつくられています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は、ミーティングや運営推進会議の場で「評価」について意見交換し、日々の実践に活かせるよう取り組まれています。新人職員に対しては、十分な説明を行い、自己評価に参加してもらうよう取り組まれています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開かれ、町内会会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表など毎回6人から10人の参加があります。会議では日常の取り組み状況や行事の報告がプロジェクトを用いて分かりやすく報告されています。また話しやすい雰囲気を心がけ、テーマにも配慮されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常的にわからないこと等があると、市へ問い合わせや相談をして、指導を受けたり情報の交換をしたりされています。資料の送付だけではなく、積極的に区の担当課に立ち寄り、よい関係を持つよう心がけ、サービスの質向上をめざされています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には、日々の様子を丁寧に伝えられています。遠方の家族など面会が難しい場合にはこまめに電話などで近況を報告されています。毎月の郵送物の中に、行事の写真とともに、一人ひとりの状況を綴った手紙を添えて報告されています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の請求書送付の際、アンケート用紙を同封して家族の意見を聞いたり、玄関には苦情箱を設けたり、要望を出しやすいよう取組まれています。家族とは、面会時に何でも話せる信頼関係をつくられており、年2回開催される家族会や、運営推進会議にも家族が参加し、思いや意見を運営に反映させています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が退職などで異動があった場合は、家族にも事情を伝えて理解が得られています。利用者への対応は、馴染みの職員がわかりやすい言葉で説明するなどスムーズな対応になるよう配慮されています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員は研修計画に沿って、働きながら職場内トレーニングを行うとともに、さまざまな研修の機会が設けられています。法人本部での研修や外部への研修には、事業所が費用を負担し職員体制も確保しながら、積極的な参加を進められています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、管理者同士でネットワークをつくれ、他事業所との交流を図られています。職員も、研修の機会に他事業所の参加者と連携され、相互のサービスの質向上に活かされています。また、他事業所からの見学も受け入れ、「ぼちぼちいこうネットワーク」などで職員の交流会を持つよう取組まれています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申し込みの利用者や家族には、施設見学をしてもらい、本人が馴染めるか、などについて家族や職員も交えて相談をされています。また、施設敷地内の小規模多機能施設「八幡の里」の利用者が利用申込みをした場合は、「八幡の里」での様子をもとに、本人の好きなことを把握するなど、ホームに馴染むための工夫が行われています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常的に家族のように接しながら、一人ひとりのできることを見極め、励ましたり、賞賛しながらお互いに支えあう関係を持たれています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情の中から、その人の思いを受け止め、家族の希望も考慮して「自分で楽しんでもらう日常生活」をめざしておられます。居間でのテーブルサッカーやゲーム等を通して生活リハビリにつながられています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者、家族の意見を尊重して、個別ケアに取り組まれています。ユニットごとに毎月1回ユニット会議を開き、管理者、職員全員で意見を出し合いチーム連携で介護計画を作成されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的にモニタリングされており、日々記録されているカルテを参考にして、状況に合わせた計画の見直しをされています。状態の変化には、本人と家族、主治医とも話し合い、状況に応じた介護計画の見直しをされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの敷地内に小規模多機能の施設があり、泊まり、通所のサービスの利用者と一緒に、四季折々の行事に参加されています。庭でのソーメン流しや餅つき、避難訓練なども共に行うなど、閉塞感を感じさせないよう柔軟な対応が行われています。また、郊外に野菜畑を借り、利用者と一緒に芋掘りをするなどして収穫を楽しんでいます。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は、近所の提携病院医師を主治医として、状況によって迅速な対応ができるよう支援されています。これまで利用者が受診していた歯科、眼科、耳鼻科などは家族の付き添いで受診したり、往診にも来られています。緊急の場合は近くの総合病院と連携を築き、早急な対応が可能です。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時や面会時に、終末期のあり方について話し合いをされており、必要性が高くなると主治医と家族で再度よく話し合い、その意向に沿ったケアで支援されています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりのプライバシーや尊厳を大切に守られ、穏やかな声掛けや気配りによって対応されています。個人情報の扱いには家族の同意書をもらうなど、配慮されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしは、一人ひとりのペースに合わせて、ゆったりと時間が流れています。食事時間も時間にしばられずその人に合わせるなど、個別の支援をされています。一人ひとりの好きなことを見出して、生活リハビリに取り込むなどの工夫もされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の夕食は、献立作りから食材の買い物、調理の準備、片付けの手伝いなど、利用者ができる範囲のことを一緒にされています。ホームの庭で採れた野菜を食材として利用し、季節感を持たせて食欲を引き出されています。晩酌の好きな利用者は、少量のお酒を飲めるなど、満足感と食欲増進につながられています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は家庭的な個浴で、季節ごとによぎ湯、菖蒲湯など入浴を楽しめるよう工夫されています。利用者一人ひとりの希望に合わせて、体調不良時には、清拭、足浴やシャワー浴で対応されています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々を楽しく暮らせるよう、一人ひとりの身体状況に合わせて、できることを支援されています。室内の掃除、テーブルの雑巾がけ、洗濯物たたみなど役割づくり、音楽や生け花の好きな人は、ボランティアの協力で趣味の継続、庭の梅の実がなると収穫して梅酒作り、郊外の畑に出かけてさつま芋の収穫など、様々な支援をされています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は食材の買い出しや近郊の野菜畑に職員と一緒に出かけるなど、頻繁に外出の機会を持たれています。季節ごとに近くの植物公園付近の花見や、町内会の行事参加などで積極的に戸外に出かけられるよう支援されています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけず、開放感を持たれています。2階の階段の柵には危険防止のために鍵をかけていますが、利用者の出かけた希望を汲み取り、鍵をあける時は、職員の見守りを徹底し、事故が起きないように配慮されています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の日中・夜間を想定した避難訓練は、年2回実施され、利用者も参加されています。地域住民の希望で、ホームが一時避難場所になっており、地域住民の支援も得られています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を記録されており、一人ひとりの状態が把握されています。また、身体症状に応じて、刻み食やとろみをつけて個々に対応されています。ポカリスエットや昆布茶、ジュースなど好みの飲み物を台所に置かれ、いつでも飲めるよう配慮されています。		
また、身体状況に (1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には大型テレビの前にゆったりとしたソファが置かれ、自室から出てくつろぐ利用者もおられます。壁にはみんなで作成した大きなもみじの張り絵が飾られ、製作の様子が伺われます。テーブルには庭で咲いた花が活けられ、冬には家庭的な「炬燵で団欒」の場をつくるなど、季節感のある空間づくりに配慮されています。また、庭に面したウッドデッキではお茶を楽しむことができます。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が自宅で使っていた家具が置かれ、家族の写真が飾られるなど、家庭にいるような雰囲気づくりに配慮されています。部屋の名札は木製で花があしらっており、優しい雰囲気になっています。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム アイリーフ五日市 I

評価年月日 21年8月29日

記入年月日 21年9月14日

※この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 1F管理者兼 計画作成担当者兼 介護職
氏名 藤井 正江

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

目 次

I 理念に基づく運営	1	IV その人らしい暮らしを続けるための 日々の支援	9
1 理念の共有	1	1 その人らしい暮らしの支援	9
2 地域との支えあい	1	(1) 一人ひとりの尊重	9
3 理念を実践するための制度の理解と 活用	2	(2) その人らしい暮らしを続けるため の基本的な生活の支援	10
4 理念を実践するための体制	2	(3) その人らしい暮らしを続けるため の社会的な生活の支援	11
5 人材の育成と支援	4	(4) 安心と安全を支える支援	12
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	4	(5) その人らしい暮らしを続けるため の健康面の支援	13
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとそ の対応	4	2 その人らしい暮らしを支える生活 環境づくり	14
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続へ の支援	5	(1) 居心地のよい環境づくり	14
III その人らしい暮らしを続けるための ケアマネジメント	6	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環 境づくり	15
1 一人ひとりの把握	6	V サービスの成果に関する項目	16
2 本人がより良く暮らし続けるための介 護計画の作成と見直し	7		
3 多機能性を活かした柔軟な支援	7		
4 本人がより暮らし続けるための地域 資源との協働	7		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「あたたかい 家庭の雰囲気そのままに」の実現の取り組みとして 地域の方々が訪問し易い雰囲気づくりを心がけている。買い物・散歩・散歩など地域の生活を楽しんでいる。9月から、インフルエンザ流行で、感染予防の為、沈静するまで、外出をなるべく控えている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	全職員が理念の実践に取り組んでいる。また、ひとりひとりに、自由にのんびりと過ごせる様に寄り添うケアに取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族会・運営推進会議・地域住民の方々との座談会の際、認知症のことやグループホームの役割、地域の中で生活することの大切さを話している。地域の行事に、利用者様と参加したり、老人会の方々を施設見学にお誘いしたり、積極的に取り組んでいる。	○	引き続き、町内会長・民生委員 地域の方々との気軽な付き合いを深めたい。

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	ご近所の方の好意でご自宅から苗を持参され施設の畑に植えて下さったり、「畑でとれたから」と季節の野菜をご近所から頂いたり、行事の際ご近所の方や、保育園園児の参加もある。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に入会しており、地域の行事などに参加し交流を深めている。老人会の皆様に、施設見学等にお誘いし施設に足を運んで頂いている。	○	地域の方々に気軽に立ち寄って頂き、交流を深めていきたい。介護についての悩み事等、気軽に相談できるご近所付き合いが出来る様に取り組んでいきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	サロン等の取り組みで、地域高齢者の活動の場を提供するお手伝いをしている。また、定期的な老人会の集まりに参加し、介護保険の利用の仕方、「ちょっと、聞きたいこと。」等、よろず相談に取り組んでいる。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職場全体での取り組みを自己評価等で再確認している。改善に向け職員の自発的努力の向上に繋がっている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	日常の活動・取り組み等を報告し、参加者に意見 要望・提案を頂き、サービスの向上に活かしている。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	解らない事があれば、その都度 市へ問い合わせ 指導を仰いでいる。また、		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	家族会では成年後見制度について説明している。一部の職員は、研修で学んでいる。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修で学んだ事、市からの指導は書面で伝えている。「アルツハイマー病患者からの10のお願い」を、職員の目につく所へ貼り、毎日のケアを振り返ることで、事故防止に努めている。また、ご自宅へ一時帰省された方には家での様子を伺っている。	○	引き続き、研修をしていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

4 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項、契約書、同意書の内容をひとつひとつ説明し理解、納得を得ている。不安や不明な点は、何度でも説明を行いますと、お伝えしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	利用者様が何を求めているか、教えてもらうため密なコミュニケーションを図っている。またその都度伺うよう努めている。玄関にご意見箱を設置し、また毎月の郵送物の中にアンケート用紙を入れて、匿名で家族会代表に返信するシステムを作っている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族の面会時、日々の様子等全般を丁寧に報告している。毎月、家族あての手紙で、施設での生活の様子を、お知らせしている。また、電話にて、近況をお伝えすることもある。	○	ご家族様の体調不良もあり面会が難しい方には、報告の頻度を増やしたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎月の請求書の中にご意見・ご要望の用紙を同封したり、玄関にも意見箱を設けご家族の意見要望が聞き出しやすい環境を整えている。どの様な意見が有りどの様に対応したか家族会や書面で報告している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のミーティングで各職員から出た意見提案を全職員がどの様に改善するか討議している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者様の状況の変化には、随時、業務内容の変更をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職場は利用者様の重度化に伴い業務内容はハードであるが、職員間の信頼関係が有り働き安い環境である。離職の際は利用者様の理解できる言葉で説明している。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員のスキルアップを図るため、随時必要に応じ市の研修・GHの研修等参加している。また、資格取得の機会を確保し、年1回職員研修を、岡山で実施している。	○	全職員に、安心して研修を受ける事ができるように、ゆとりをもった職員体制が確保できるよう取り組んでいきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	GHの定期的な研修会・施設見学・親睦会等の交流をしている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	なかなか難しい課題である。ストレスは全職員が感じているが、「この仕事が好き」と、職員は仕事を楽しんでいる。必要に応じ業務内容の変更をしている。また親睦会等、催しストレスの軽減に努めているが、ユニットが抱える課題である。	○	職業的にストレスが伴う仕事である。コミュニケーションを取りながら職員皆で取り組んで行きたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	職員個々の努力、また達成した際、全職員で賞讃し、管理者は、都度幹部に報告し、ひとりひとりの「やる気」に感謝している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	コミュニケーションをよく取り、ご本人から生活歴を聞き、これからどういう風に暮らしたいかの希望を知ること努めている。夢、思い、願い、したいこと等話の中に盛り込んで聴く機会を取っている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談時、いろいろ施設をご覧になれることを勧めている。そして、納得・理解され利用される事を勧めている。また、ご家族の思いを受け止め、その都度、話を伺う機会を持っている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	「その時」を、まず話せる範囲で聞かせて頂き、適切なサービスや、他の社会資源の情報提供をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ゆっくりと、ご本人のペースに合わせ少しずつ理解して頂くよう、入所前にご本人に施設見学にきて頂いている。ご家族と情報を共有し暮らしを支援している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に時間を過ごすことで、日常的に家族のように接している。出来ることは、ご本人にして頂き、職員はひとりひとりの出来る事を、見極めている。またその都度、励まし、称賛、感謝の気持ちを述べあい、温かい関係作りを行っている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時に日常の暮らしを伝え、ご本人の必要に応じて、ご家族の協力を率直に依頼し、よりよい暮らしを送れるような関わりをしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	ご家族には、ご本人の施設での様子を、細やかにお話し、理解して頂けるように努めている。また、ご本人の希望も伝えている。また、ご本人には、ご家族の事情を説明し、納得して頂けるように、努力している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会はオープンである。昔の友人、知人が面会に来られた場合は、積極的に受け入れるようにしている。	○	地域のボランティア・ご家族のボランティア・ご近所の方々の面会があり、今後もオープンな環境を継続していけるよう努めたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者様同士の関係は全職員把握している。利用者様への毎日の声掛け、また ゆったり過ごせるよう、リビングにはソファを置き 話やすいスペースがある。行事等、全利用者様と楽しんでいる。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	お便りなどで 交流を継続している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の、会話、表情等から、思いや希望を理解するよう努力している。把握している。また、ご家族とも、情報交換を行っている。	○	引き続き、ひとりひとりの個性を十分理解し、個別ケアに努めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族・利用者様に話をよく聴き 馴染みの暮らし、大切にしているものの把握に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
w 35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個々に合わせた過ごしかたをしている。また、全職員が把握している。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者様、ご家族の、希望思い等伺い、日々の暮らしの中での目標が、達成感を感じて頂け、楽しみのある、介護計画を作成するように努めている。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的に、また状態の変化がある時には、プランを見直している。その都度ご本人、ご家族、主治医と話し合い、状況に応じた新たな計画を作成している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者様の日々の様子、言動、気付き等、具体的に記録をし介護計画やケアの実践に生かすように努めている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご本人・ご家族の要望に応じて臨機応変に対応しているが、利用者様3名に対し職員1名の日中の勤務体制では 難しい場合もある。ご家族の協力が、不可欠である。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの訪問があり利用者様の話相手として活動して頂いている。民生委員・老人会の方の訪問も時折ある。避難訓練の際、消防署職員の指導を受けている。また 中学生の職場体験を受け入れている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	ご家族の要望がある際、また必要に応じて社会資源の情報提供をし、他の事業所、ソーシャルワーカーと連携を取っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターからの、施設見学もあり、先ず当ホームの雰囲気を感じ、理解してもらえるように、情報提供をしている。	○	地域包括支援センターの方に これからも運営推進会議に出席を依頼し関係を継続していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	協力医療機関(内科・歯科)がある。定期的な往診、通院の体制が、整っている。当施設の、協力医療機関とは別の病院を希望される方には、ご家族の協力を得て、適切な医療を受けられるよう支援している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	利用者様各々の主治医から指示や助言を得ている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師はいないが、同一敷地内の他施設に看護師がおり、些細なことでも相談し支援をえている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	常に病院関係者と連携して、連絡を取りながらその都度、相談している。常に、利用者様が安心して、生活できるように配慮している。家族とも話し合いをし乍、スムーズに元の暮らしに戻れるように、努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	必要に応じご家族・主治医との話し合いの機会をもつようにしている。相談し方針を決め、職員で共有している。		
48	○重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	具体的には情報収集段階である。	○	今後、勉強会をしていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	ご本人・ご家族の納得されるまで十分な話し合いをしている。退居の際は次施設に送り書等を作成している。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシーについては 概ね全職員意識しているが常にしているかといえば疑問である。個人情報の取り扱いの同意書を、ご家族から頂いて、注意を払っている。利用者様の、誇りを損ねる事が無いよう、言動に配慮している。	○	利用者様への無理強いや場合によってはやむを得ない時（転倒・ろうべん・放尿等）も有るが、プライドは大切にしていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	「どちらがいいですか」と自己決定のしやすい様に支援している。 次の行動をお願いする時は丁寧にゆっくりと説明している。		利用者様の希望の表出が表れにくいレベル低下となりつつあるが、出来るかぎり理解・納得できるよう支援していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの食事量や形態がちがうのできめ細かく対応している。 コミュニケーションをなるべく取り希望を聞き取る様にしている。		一人ひとりの個性を大切に、今後も取り込んでいきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	利用者様やご家族の希望にあう髪型にしている。着やすい服をお願いしている為、利用者がその人らしい身だしなみには、なっていないかもしれない。しかし、その中で工夫しおしゃれが、出来るように、支援している。 理容はなじみの店を利用している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備や片付けを一緒にすることが 重度化の為、9名皆では難しい状況である。その日の献立等、利用者様の好みを取り入れている。利用者様の出来る作業を、見極め体調を見ながら、食事の支度、おやつ作りをしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	嗜好品については、日常的に好みのものを聞き提供している。 お酒・たばこに関しては、入所前に止めている為、支援していない。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとり 排泄チェック表を作成している。 全職員 排泄パターンを把握している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	好みの湯温や、ご本人の体調に応じて、シャワー浴、湯舟に入る等希望や状況に合わせている。入浴中も会話を多くしている。特浴は無く、シャワー浴対応である。		よもぎ湯、菖蒲湯など、楽しんでいる。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	居室の室温換気に気を配り体調に応じて休んで頂いている。 眠る前は落ち着いた声掛けで接している。 眠れない利用者様には、温かいお茶を一緒に飲みながら一時を過ごしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	タイミングを見ながら、台所・行事等で力を発揮できる様に支援している。 ADLの低下が著しい方々が増え、日々の体調に留意しながら、暮らしを支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	日常的な、パン菓子、理容等、施設が立て替えている。お金は、職員が管理している。買い物は、一緒に出かけ、好きな物を選び、レジに並び、支払は職員がしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	日常的な買い物や、サンリブ・ビック・わたや散歩等、支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	行事等、ご家族と出かける機会を、提供するがなかなか、ご家族の協力を得ることが難しい状況である。(重度化しているため、出かけることの、デメリットが高い) 以前は、レストランや、小旅行など、積極的に出かけていた。	○	誕生日には利用者様の希望をかなえる日にしたい。行きたいところ・希望する事をご家族と共に支援したい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば随時電話を利用してもらっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気軽に訪問してもらっている。 居室でゆっくり過ごしてもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	正しく理解しているが 利用者様の安全を守る為にはやむを得ない場合は、ご家族との話し合いでその都度 ご家族の要望を取り入れている。 (ベッド柵等)		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関はオープンである。安全を配慮し日中は10:00～16:00 オープンにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	身体的・精神的な様子など 朝の申し送り・夜勤者への申し送りで ささいな情報でも全職員情報を共有して安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	その都度ヒヤリハットにあげ、何が危険かなど話し合い、どの様に安全を確保できるか確認し、取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアルもあり、日々のヒヤリハットを記録に残している。全職員が利用者様の状況を把握し、再発防止に取り組んでいる。消防署員、利用者様、職員と一緒に、避難訓練をしている。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	事故急変時のマニュアルがある。往診時に主治医に急変時の指示を、仰いで全職員で共有している。また、24時間医療連携対峙をとっている。		勉強会に 利用者様 一人ひとりに必要な応急手当を勉強会に取り入れる。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練は 日中夜間を想定し利用者様と一緒に実施している。訓練の報告は家族会・運営推進会議で報告し意見要望を頂いている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	介護記録・ヒヤリハットを基に利用者様各々のご家族に 起こり得るリスクを説明し対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日バイタルチェックし、表情や顔色・体熱感等を観察し、職員間で報告し合い記録している。早めに、主治医に指示をあおぐ様にしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬状況を介護記録に記録し、処方箋を個人ファイルにとじ、把握できるようにしている。医師に指示通り服薬出来る様、管理し症状確認している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	排便チェック表を付け飲食物(ミルク、バナナ、ヨーグルト、クロレラ)等個々に合った飲食物の摂取。また ホール内を歩いたり散歩を勧めたりお腹のマッサージ等を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	声掛けや介助により日常的に毎食後行っている。 義歯は夕食後 毎日消毒している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1日1500ccを目標とした水分摂取を心掛けている。 食事は一人ひとりの健康状態により変更している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者様・職員全員がインフルエンザの予防接種を受けている。 消毒手洗いうがい等は日常的に行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日まな板・布巾等の消毒を行い 冷蔵庫内も整理清掃に心掛け、消費者期限切れの物は廃棄処分し毎日新鮮なものを買う様にしている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	門は日中開放しており(7:00~16:00)近隣の人等が、立ち寄れる様にしている。また 行事や催しにも参加して頂いている。 建物のまわりには、花壇等も作っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	テレビの音量や照明等も時間帯に応じ調節している。 生花等で季節感を感じて頂いている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自由にくつろげるリビングで、一人ひとりが好きな様に、新聞を読んだりテレビを見たり、お茶を飲んだり過ごしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家庭で使われていた物を居室に置き、安心して過ごして頂く様にしている。中には、「病人だから治ったら帰ります。」と持ち込みが難しい方もいる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	朝の清掃時に居室ホールの換気をし、利用者様一人ひとりにあわせた、温度調節を居室では行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者様が自由にくつろげるリビングがあり、ソファに座って、テレビを見たりして過ごしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレなどには張り紙をしたり カレンダーを掛けたり常に分かる様にしている。スタッフの写真も廊下に貼っている。		
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	前庭にはイングリッシュガーデンを設置し、ウッドデッキには物干しを置き洗濯物を干し、家庭菜園も利用者様と共に、行っている。		

V サービスの成果に関する項目

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者の ②○ 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③○ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<ul style="list-style-type: none"> ①○ ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者が ②○ 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者の ②○ 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<ul style="list-style-type: none"> ①○ ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。	<ul style="list-style-type: none"> ①○ ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ② 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③ 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ① ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ② 数日に1回程度 <input type="radio"/> ③ たまに <input type="radio"/> ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ① 大いに増えている <input type="radio"/> ② 少しずつ増えている <input type="radio"/> ③ あまり増えていない <input type="radio"/> ④ 全くいない
98	職員は、活き活きと働いている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ② 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど揃っていない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ② 家族等の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 家族等の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム アイリーフ五日市 II

評価年月日 平成21年 8月 29日

記入年月日 平成21年 9月 10日

※この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 2F管理者 兼 計画作成担当者 兼 介護職

氏 名 熱田 鈴子

目 次

I 理念に基づく運営	1	IV その人らしい暮らしを続けるための 日々の支援	9
1 理念の共有	1	1 その人らしい暮らしの支援	9
2 地域との支えあい	1	(1) 一人ひとりの尊重	9
3 理念を実践するための制度の理解と 活用	2	(2) その人らしい暮らしを続けるため の基本的な生活の支援	10
4 理念を実践するための体制	2	(3) その人らしい暮らしを続けるため の社会的な生活の支援	11
5 人材の育成と支援	4	(4) 安心と安全を支える支援	12
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	4	(5) その人らしい暮らしを続けるため の健康面の支援	13
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとそ の対応	4	2 その人らしい暮らしを支える生活 環境づくり	14
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続へ の支援	5	(1) 居心地のよい環境づくり	14
III その人らしい暮らしを続けるための ケアマネジメント	6	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環 境づくり	15
1 一人ひとりの把握	6	V サービスの成果に関する項目	16
2 本人がより良く暮らし続けるための介 護計画の作成と見直し	7		
3 多機能性を活かした柔軟な支援	7		
4 本人がより暮らし続けるための地域 資源との協働	7		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「暖かい家庭の雰囲気そのままに」という理念を掲げ、個人個人がいきいきとした生活を行っていけるよう、支援している。 入所前の生活も調査し、出来る限り近づけるように心がけている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員全員が理念を述べる事ができ、日々のミーティング等で、理念の実践へ向けた話し合いをもち取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	理念を共有、理解して頂くために、重要事項説明書に掲載しており、またユニット内に違和感のないよう掲示をしている。		

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	常日頃から、行事参加の呼びかけや習いもの教室の開催などを定期的に行っており、日常的な付き合いが行われている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	老人クラブや納涼祭、秋祭、とんど等、年中を通して地域の行事に参加をしている。また、地域のボランティアの受け入れも行っている。 介護保険の相談、認知症家族への相談が出来るように窓口を開けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	研修生の受け入れや、中学生の職場体験を受け入れている。	○	地域の方からの要望があり、宅老所・地域サロン等の取り組みが地域の方々と一緒に進んでいる。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員会議や連絡表にて情報を共有し、ほとんどの職員にて自己評価を行っている。評価の結果を職員会議で協議し、具体的な改善に職員全員が乗り出している。	○	新規の職員にも十分な説明をして理解してもらい、早い段階で自己評価に参加してもらいたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	日常の取り組みを、プロジェクターを利用し分かりやすいように構成員に説明報告している。また意見交換の時間を多く取っている。	○	会食などを盛り込みながら、話のしやすい環境作りに努めている。評価のテーマを活用して、話し合いの場へ生かしていきたい。
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議以外では、主に電話や FAX でやり取りする程度である。	○	資料の送付だけでなく、近くへ寄ったら立ち寄り、資料を持参する等かわり方を考えていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者や一部の職員は研修で学んでいる。必要な方の相談受付を行っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	認知症高齢者への接し方を学び、大切なことは書き出し、職員の目のつく所へ貼りだし、理解、自己研鑽を重ねて事故防止に努めている。	○	虐待防止法についての研修を企画していきたい。
4 理念を実践するための体制				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項、契約書の内容をひとつひとつ説明し利用する際の不安や疑問点を伺っていくようにしている。何回でも説明を行いますとお伝えしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	ホーム玄関の入り口に意見要望箱を設置し、また毎月の郵送物の中にアンケート用紙を入れて意見要望があれば匿名で返信して頂くシステムを作っている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時、家族会や行事、毎月の郵送物に同封する手紙や写真、また電話にて近況を伝えるようにしている。毎月、家族あてに近況を手紙にて伝えている。	○	面会の少ない家族にはどの職員からも積極的に声を掛けて、日常の様子を伝え話す機会を設けていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎月のアンケートや意見箱にて、意見要望が聞き出しやすい環境を整えている。意見があった場合迅速に返答し、対応している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフの意見を取り出すように、ミーティングでも話しやすい雰囲気作りをしている。意見が出た場合は実行に移せるか、全職員で話し合っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	行事や予定に合わせて、スタッフの数を調整している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ユニットごとに管理者、職員を固定させており常に馴染みの職員の対応を受ける事が出来る。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

5 人材の育成と支援

19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員に対する研修や年に一度、職員研修として内・外部の講師を呼んで研修を行っている。	<input type="radio"/>	新人を段階的に育成する計画を立てていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホームのネットワークを通じて、交流会や見学会の参加をしており、いつでも見学を受け付けられる体制を持っている。	<input type="radio"/>	訪問、見学職員交換会や交流会を行ってきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	いつでも連絡、相談が取れるように、連絡表や連絡網の作成がされている。	<input type="radio"/>	職場内の行事参加は自由であるが、職場外でのスタッフ交流が出来ていない。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	毎月の幹部会議にて職員個々の努力や実績を把握し、力量に合った仕事を振り分けて、向上心を持って働けるように努めている。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	本人とのコミュニケーションの時間をしっかりと取り、希望、要望する事や現在の生活についての話を度々話題の中に盛り込んでいる。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族の思いを受けとめ、利用者様とご家族の不安を少しでも軽減できるよう話し合うことに努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	「その時」の本人の状況を話せる範囲内で、お話頂いて、適切なサービス利用ができるよう促している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所前に利用者に見学に来ていただきホームの雰囲気に慣れて頂くようにしている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に家事を行ったり食事をしたりする事で、同じ時間を過ごす家族のように接している。利用者様から学ぶことも多く、感謝の気持ちを述べ暖かい関係作りを行っている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族に利用者様の日々の様子を伝え、ご家族からの要望をお聞きしながら、一緒に利用者様がより良い暮らしを送れるような関わりを持つことを念頭に置いている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	必要に応じて電話で話をしたり、ご家族との時間を大切にし、より良い関係を持ち続けられるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔の友人や知人が面会に来られた場合は積極的に受け入れるようにしており、頻繁ではないが手紙での交流も行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者様が孤立しないように声かけを行い、レクリエーションや日常生活で関わりを持てるように働きかけている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービスが終了しても、電話にて行事にお誘いしたり、気軽に立ち寄って下さいと声を掛けたり、関係を断ち切らない付き合いをしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話や表情から、利用者様の意向の把握に努めている。またご家族の来訪時には情報交換を行うように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時にご本人ご家族から情報収集を行って把握している。日々の会話の中からも生活歴を聞き、把握するように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	介護記録、1日の排泄や水分チェック表などから1日の過ごし方や一般状態の把握に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者様、ご家族の意見を伺い、利用者様が安心して暮らせる介護計画を作成するように努めている。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的に介護計画を見直し、利用者様の状態に合わせた計画を作成している。モニタリング・課題評価も行っている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者様の日々の言動やケアの状況を具体的に記録し、介護計画やケアの実践に生かすように努めている。		

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者様やご家族の要望に応じて、地域の行事への参加、買い物や外出、受診時の付添など柔軟な支援を行っている。		
----	--	---	--	--

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域への行事への参加やボランティアの受け入れを行っている。消防訓練には佐伯区の消防署に協力、助言して頂いている。		
----	---	--	--	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要性に応じて、ほか事業所ケアマネージャーと連携を取っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在、実施できていない。	○	本人の意向や必要性に応じて、連携を取るよう努めていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人家族の希望をお聞きし、意向に沿えるよう努めている。定期的な通院、往診の体制が整っている。歯科医師による月1回の歯科検診や往診による治療も行われている。	○	利用者それぞれに合った受診、往診方法をとっている。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。			
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。			
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	病院の医師や医療関係者、ケアマネージャー、ご家族との連絡、情報交換を行い、退院後の生活に向けての連携を取っている。	○	医療関係者と連絡を取りながら、早期退院へ向けての相談をご家族から受けている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	入所時、面会時にご家族と話をしている。また必要性が高くなってきたときには、主治医、ご家族を含めて話し合いの機会を度々設けている。	○	入所の段階で、ターミナルについての説明や話し合いをしていきたい。
48	○重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ご家族、主治医、ケアマネージャーと話し合いながら検討、準備をしている。	○	
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	施設関係者への情報提供を行い、ご家族にも生活の様子を伝えている。	○	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	個人情報の取り扱いについてはご家族に同意書を頂いて注意して行っている。又、日々の生活でもプライバシーを守るよう支援し、本人の誇りを損ねる事がないよう、言動に配慮している。	○	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	自己決定の場を奪わないよう、本人が思いや希望を表わせるような声掛け、信頼関係作りに努めている。	○	わかりやすい言葉かけを行い、自己決定できるように関わるようにしている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースに合わせ、できる限り本人の希望に沿って支援している。		本人の希望に合わせて、生活リハビリ（個人メニュー作り）に取り組んでいる。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人が望む身だしなみの支援を行っている。理容、美容はご家族の協力を得ながら、本人の望む店に行けるよう努めている。		近隣の美容室2軒を定期的に利用できるように支援している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	本人のできる作業を見極めながら、毎日の食事準備、片付けを一緒に行っている。買い物にも声をかけている。	○	毎日の夕食は、献立作りから、買い物、調理、片付けを職員と一緒にしている。 (本人の意思を大切にしている)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	移動パン屋さんにて、好きなパンを購入してもらったり、好きな飲み物のリクエストに応えられるようにしている。又、日々の買い物に出かけた時も、好きなおやつが買えるよう支援している。	○	晩酌をしてもらっている。(2名)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を付けて、職員全員で排泄の間隔が共有できるようにしている。尿意のない利用者には声掛け誘導にて排泄してもらおう。又、定期的にパット交換を行い、いつも気持ちよく過ごしてもらえよう支援している。		失禁のひどい時は、シャワー浴を行っている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の希望に添いながら、3日以上入浴できない日が続かないよう支援している。体調に合わせて清拭、足浴等も行っている。	○	菖蒲湯やゆず湯、ヨモギ湯が楽しめるようにしている。(入浴のない日に足浴している)

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日々の申し送りや記録から、睡眠のパターンを職員全員が共有し把握している。不安や淋しさから眠れないときは、お茶を飲みながら職員と一緒に過ごしている。		朝、起きれない方はゆっくりと寝てもらっている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	それぞれの ADL に合わせ、掃除、洗濯、炊事、買い物などを生きがいや張り合いを持って行ってもらえるよう支援している。	○	それぞれの年代に合わせた音楽や、楽しみ事を提供している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を立て替えている。	○	買い物の時に支払いが可能な利用者にはお金を手に取ってもらい、支払いをして頂いている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物や散歩、地域の催し物には外出しているが、利用者全員や個別の時間の希望に添えていない。	○	1 日の業務内容を把握して、個別の外出希望に沿えるよう支援していきたい。季節に応じた外出レク。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	日常は近所のスーパーや公園に偏りがちではあるが、年間行事に小旅行などを盛り込んでおり、普段行く事が出来ない場所へご家族の協力を得ながら外出している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙や電話は必要に応じて支援している。文字が見えにくい方が希望すれば、代読している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも面会ができる事をお客様個人、ご家族を通じて伝えている。又、面会時には本人の居室でお茶を飲みながら、リラックスした雰囲気です過ごしていただけるよう努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員全員が情報を共有し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ご家族が、本人の安全を守るためにどうしても行ってほしいという場合には、同意書をもらい身体拘束を行うこともある。(現在はなし)	○	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵がかかっている事の弊害を理解して、ケアに取り組んでいる。夜間は見守りの職員が1名のため施錠をしているが、日中は基本的に開放している。家族には説明し、同意を得ている。	○	極力鍵をかける事のないように、職員が利用者の状態、希望を把握して対応していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員間で連絡、相談しながら、日中の安全確認が行えるようにしている。	○	居室内での転倒予防に、センサーライトや、布団に付けた鈴で安全確認ができるようになっている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々の状況に応じて、針やハサミを使用してもらっている。又、使用するときには安全の確認ができるよう職員が側について見守りを行っている。(片付けの時、数を確認している)		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	リスクチーム(危険予測をして早急に対応策を実行していくチーム)を設定して、日々の勉強会やミーティングで情報を共有している。	○	

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	全職員が事故急変時に対応ができるよう、必要な説明、勉強会をしている。		佐伯区 GH ネットワーク主催で、消防署にて行われている救急蘇生の講習会へ参加している。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に 4 回、消防署職員の指導のもと様々な状況を想定した火災避難訓練を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	リスクを含めた日常の報告を随時行っている。必要によっては書面での同意書を頂いている。	○	個人個人に合ったリスクに合わせた同意書作り。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々の体調変化に迅速に気付けるように努めている。気づきは申し送り表を活用し、特記は赤ペンで記入し、職員全員で情報を共有している。	○	日々の申し送りで、ホウレンソウの徹底。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	誤薬がないよう、朝、昼、晩、眠前、それぞれの薬カレンダーにセットしている。症状の変化に気づいた時には、管理者、主治医に報告している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分摂取に気を付けたり、効果の期待できる食品を摂ってもらっている。	○	日々のおやつを工夫し接種してもらうようにすること。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後口腔ケアを行っている。 義歯をポリデントへつけてもらったり、ケア用品を毎日除菌している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べられる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量、水分量のチェック表を付けている。 刻み食や、とろみをつけてそれぞれに合わせた食事形態を提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	それぞれの予防対応マニュアルが設置してある。 毎年インフルエンザの予防注射、ノロウイルス対策に次亜塩素酸での消毒を毎朝行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材の作り置きはしない。調理用具は毎食後に除菌している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関の鍵は開放している。 地域の人にも出入りしてもらえよう、園庭にはバラやハーブを植えており足を止めて楽しんでいただけるような雰囲気づくりに努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	全職員が居心地の良い共有空間づくりを意識している。 季節の草花を飾ったりしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールにはソファを設置しており自由に寛ぐことができる。又、本人のくつろぎたい場所へ、椅子を持って行くこともできる。庭にはベンチを設置している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が使い親しんだものを、居室に置けるようご家族と相談しながら安心して居心地の良い環境作りに努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	日中夜間の気温に配慮し、換気、温度調節を行っている。	○	換気（窓の開放）を拒否される方もおられるので 本人の意思を尊重し、協力をいただけるよう声掛けを行う。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	身体の状態に合わせて、居室内に手すりを付けたり、食事では自助具を取り入れ自立支援を行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレ、風呂、本人の居室には場所が分かるよう名前が表示されている。 それぞれの認知や身体に合わせて掲示物を工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダや階段踊り場は、利用者が自由に行き来できるようにしている。希望すれば、庭や同一敷地内の施設へ職員と一緒に出る事が出来る。		

V サービスの成果に関する項目

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="radio"/> ① 毎日ある <input type="radio"/> ② 数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③ たまにある <input type="radio"/> ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ② 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③ 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ① ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> ② 数日に1回程度 <input type="radio"/> ③ たまに <input type="radio"/> ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ① 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ② 少しずつ増えている <input type="radio"/> ③ あまり増えていない <input type="radio"/> ④ 全くいない
98	職員は、活き活きと働いている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> ② 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ② 家族等の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 家族等の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目